

国際交流委員会からの近況報告

国際交流委員長 嘉田 由紀子

<国際農村社会学がルーマニアで7月に開催されます>

この7月22日から7月26日にかけて、ルーマニアのブカレストで国際農村社会学会 (IRSA:International Rural Sociology Association) がひらかれます。村研からは約30名が参加の意向で、そのうち20名の方が口頭発表を行う予定です。日本に関するセッションは、「世界経済の中での持続的な農村開発と家族農業の危機：日本の経験」という全体テーマの下に、7月23日に開催される見通しです。仮のプログラムとして、龍谷大学の河村能夫氏とIRSA事務局の打ち合わせの結果、以下のような3つのサブテーマで構成されることが決まりました。

セッション1：「日本農村における家族農業と家族の変容」（セッションリーダー：杉岡直人）

- ・日本農村における直系家族の変遷と継続性（大友由紀子／堤マサエ）
- ・日本の農村地域における女性問題と家族農業協定（中道仁美）
- ・日本における直系家族制度と家族農業の継続性（細谷昂）
- ・日本農村における家族変化と家族農業（杉岡直人）

セッション2：「日本の農業政策と農村環境の変化」（セッションリーダー：嘉田由紀子）

- ・山形県、最上地方における農業政策の変化と家族生活（菅谷よし子）
- ・日本における週末農業の再評価－福井県の事例から（伊藤勇）
- ・生活環境整備計画とともに農村生活の変貌（重岡 徹）
- ・農村社会と環境の変化に対する社会映像的アプローチ：

　　日本の琵琶湖地域の事例から

（嘉田由紀子）

セッション3：「国際化する日本経済下での農村変化と農村の活性化」

（セッションリーダー：河村能夫）

・日本の近代化における農村社会：基礎的社会関係の発展の3種類

(長谷川昭彦)

・地域資源管理における日本農村村落の自己管理にかかる再組織化

(川手督也)

・各種の農業者活動とその活性化：日本農村の変貌 1960-1990

(飯坂 正弘)

・国際化する経済体制下における農村地域開発の多様性：

日本の経験におけるフォーディズム 対 ニッヂズム

(河村能夫)

<アジア農村社会学会が正式に発足する見通しです>

4年前からワーキンググループをつくり、活動をはじめてきたアジア農村社会学会が、この7月のIRSA会議で、正式にIRSAを構成する地域学会として発足する見通しです。このワーキンググループのチアーマンをしてこられた関西学院大学の鳥越皓之氏によると、今年のIRSA会議のひとつのハイライトがアジア農村社会学会の発足ということです。具体的には、7月のIRSA会議に鳥越氏が参加し、今後の会の組織化や運営について、話あってこられるということです。

アジア農村社会学会を担うひとつの母体としてこの村研が重要な役割をはたすことは避けられないことと思われます。また村研の国際的展開のためにも大変のぞましい方向と思われます。

この学会発足をひとつの契機として、村研メンバーとアジアの研究者との相互交流の道をさらに深める道を求めるものです。それには大きくわけてふたつの道があると思います。ひとつは、お互いの研究交流を密にし、共同研究などを活発化することです。この点については個々の研究者や研究グループ毎にすすめられることです。もうひとつは、学会として、会費の減免や研究会参加への旅費補助などが行えるような支援体制をつくることです。今年の村研大会では、学会としての支援体制について、具体的な提案ができるように計画したいと考えています。